

第24回市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について (座長報告)

平成18年7月11日

1. 開催日程

日時：平成18年7月3日(月) 15:00~17:15

会場：中央合同庁舎第4号館 11階共同第1特別会議室

2. 議事概要

(1) 「市民参加懇談会 in 姫路」の開催結果について

○市民参加懇談会 in 姫路の開催結果について、コアメンバーのご意見を伺った。

- ・放射線利用をテーマとして初めて実施し、知識普及の観点、参加者の反応から見れば全体的には良かったが、実施方法等個々に反省することがあった。
- ・食品照射、工業利用、医療等幅広く扱いすぎた。
- ・放射線利用も原子力発電と同様に一つの柱として扱うべき。
- ・原子力発電を中心としたもとの形に戻ったほうが良い。
- ・知識普及型で行うと本来の市民参加懇談会と役割が違うのではないか

○「ご意見への対応」(別紙)について、本案にて原子力委員会本会議に報告の上、各関係機関に連絡することとなった。

(2) 今後の市民参加懇談会の開催について

○次回の開催地、テーマ等について、コアメンバーにご意見を伺った。今回のご意見を踏まえ今後電子メール等により更に調整することとなった。主な意見は次のとおり。

- ・消費地域：北海道札幌市、立地地域：島根県松江市等について、状況等を整理したうえで、再度コアメンバーにご意見を伺う。
- ・放射線利用のテーマについては、「他の教育機関で行うべき」、「被ばくなど理解不足の点もあり、行うべき」等賛否両論の意見が出された。
- ・市民参加懇談会の開催地に関する考え方を明確にすべき。

以上

市民参加懇談会 in 姫路でのご意見等への対応について

(別紙)

意見分類	ご意見等	対応
<p>広聴・広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な放射線利用の種類、メリット、デメリット、今後の展望を知りたい。 ・放射線利用について、国や電力会社等の広報活動とともに教育の場で正しい知識を普及すること、マスコミが正しく報道することなどが求められるものと考えている。 ・放射線は、一般に意識されていない。放射線の利用について、国としても国民向けに広報し、理解を広げることにより放射線のさらなる有効活用につながればよいのではないか。 ・報道関係者に正しい知識をもってもらふことこそ肝要ではないか。 ・小・中・高の教育カリキュラムに入れ込むことが必要ではないか。 ・放射線という呼び方を、違う言葉に置き換えられないか。 ・地域毎に地道に学習・広報できる場を作っていく、継続的にやっていくべきではないか。 	<p>原子力政策大綱では、3-2「放射線利用」において、基本的考え方を示しております。同大綱2-5-2「広聴・広報の充実」に原子力の研究、開発及び利用に関しての国民や地域社会との相互理解を図る活動の必要性について示しております。また、2-5-3には「学習機会の整備・充実」を示しています。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます。</p> <p>また今後、ご意見は当委員会が行う政策評価等の参考にさせていただきます。</p>
<p>医療分野関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素粒子治療にかかる費用も高いと聞いたことがあります。より多くの市民・国民が利用できるような施策を国にお願いしたい。 ・放射線、粒子線治療について詳しく聞きたい。 ・健康診断で利用するX線撮影の被ばく量はどれ位まで安全なのか(年間に)知りたい。 ・健康診断、医療診断等の被曝線量が記録に残らないのは片手落ちではないか。 	<p>原子力政策大綱3-2-2(3)に医療分野における放射線利用の進め方を示しています。また、当委員会においては放射線医療関係者からのヒアリングを行いました。このようなご意見について関係機関に伝えます。</p> <p>また今後、ご意見は当委員会が行う政策評価等の参考にさせていただきます。</p>
<p>農業分野関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線の食品照射は、日本ではじゃがいもしか認められていないが、海外では多くの食品に用いられていると聞いている。日本であまり普及していない理由と、フランスでは多くの食品で許可しているのに、じゃがいもは認めていないのは何か理由があるのか。 ・放射線により、じゃがいもだけは発芽を抑制されるのに効果がありますが、多種の野菜に使用し、食品の安定供給はできないのか。収穫時期をずらして年中安定価格で野菜を購入できるようにはならないか。 ・食品や農業分野への放射線利用に当たって、一般の方が抱く食の安全性への懸念に対してどのように説明すればよいか。また説明する際の根拠となるデータや事実関係があるのか。 ・食品分野における放射線の利用状況を知りたい。 ・沖縄などで害虫駆除をしたと聞きましたが、どうようにしたのか。 ・植物の品種改良に放射線を利用することにより、耐病性の品種を作ることが可能となっていると聞いているが、人体に影響はないのか。 	<p>当委員会では食品照射専門部会を設置し、内外の動向について調査、検討を進めているところです。</p> <p>原子力政策大綱3-2-2(4)に農業分野における進め方を示しております。また、このようなご意見について関係機関に伝えます。また今後、ご意見は当委員会が行う政策評価等の参考にさせていただきます。</p>
<p>工業分野関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線が工業の様々なところで使われていることを知って驚いた。安全が担保されて、世の中の役に立てば積極的に利用してほしい。 ・工業で、今後どのような分野の産業の成長が期待されているか知りたい。 	<p>原子力政策大綱3-2-2(2)に工業分野における進め方を示しております。今後の利用分野についてナノテクノロジー分野や材料分野など多くの分野で成長が期待されています。また、このようなご意見について関係機関に伝えます。また今後、ご意見は当委員会が行う政策評価等の参考にさせていただきます。</p>
<p>教育</p>	<p>放射線・放射能に対する知識が低い、義務教育における放射線に関する教育は、どの程度行われているのか。</p>	<p>原子力政策大綱2-5-3「学習機会の整備・充実」に学習機会の多様化、充実の取り組むべきと示しております。現在、関係省庁においてエネルギー問題に対する総合的な見方・考え方を育成し、自ら考え、判断する力を身につけることができるよう教職員への支援および副教材の提供等種々の取組を実施している。また、このようなご意見について関係機関に伝えます。</p>
<p>全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、食品に関連した放射線で先進諸国に比べ、国民の受けるサービスが不利益を被っていないものはないか。 ・放射線利用の研究をすべきである。 ・放射性廃棄物について、国土の狭い日本でこれをどこにどのように処理する方針ですか。 	<p>原子力政策大綱では、3-2「放射線利用」において、基本的考え方を示しております。また同大綱2-3に「放射性廃棄物の処理・処分」について示しており、現在関係機関にて検討を進めています。当委員会としては、このようなご意見について関係機関に伝えます。</p>